

# 香港の日本語学習者における言語学習ビリーフ

## —2014 年香港日本語学習者背景調査報告—

### Beliefs about Language Learning of Japanese Learners in Hong Kong

宇田川 洋子・梁 安玉・李 澤森・侯 清儀・李 夢娟

香港日本語教育研究会

## はじめに

香港日本語教育研究会（以下、研究会）では 2010 年から香港の日本語学習者を対象とした調査を実施、報告しており、今回はその 4 回目に当たる。2010 年には香港の日本語学習者の日本についての体験・経験や関心、学習目的など（木山ほか、2011）、2012 年には香港の日本語能力試験受験者減少の要因（宇田川ほか、2013）、2013 年には香港の日本語学習者減少の要因（宇田川ほか、2014）をテーマにアンケート調査を行った。本稿はこれに続くもので、香港の日本語学習者の言語学習ビリーフに関する調査の報告と分析である。

## 1. 先行研究

「ビリーフ」は、Horwitz (1987) などの研究で用いられている「Belief(s)」の訳であり、言語あるいは外国語の学習に関する信念、意見、あるいは考え方のことで、日本語訳は、言語学習観、信念、確信、ビリーフ、ビリーフスなどが用いられている。本稿ではビリーフとする。

本稿で報告するアンケート調査の方法は、他の多くの言語学習者のビリーフに関する先行研究同様、Horwitz (1987) によって提案された BALLI (Beliefs About Language Learning Inventory) を参考としている。Horwitz (1987) は ESL (第 2 言語としての英語学習者) を対象とする調査のために、5 つの調査領域 (言語学習の適性・言語学習の難易度・言語学習の性質・学習とコミュニケーションストラテジー・動機) の 34 項目からなる BALLI を作成した。これによれば、学習者は言語学習に関して様々なビリーフを持っており、ビリーフが学習ストラテジーにも影響を与えていることなどが指摘されている。その後、BALLI 調査はいろいろな言語の学習者のビリーフ調査に用いられ、外国語あるいは第 2 言語としての日本語学習者を対象にした例では、高崎 (2014)、阿部 (2013)、片桐 (2005) などがある。また、香港の日本語学習者に特定すれば、香港の 4 大学の学生に対して行った調査報告が 2 つある (板井, 2000、2001)。本調査は選択肢の設定などに、これらの報告を参考にした。

本稿は、現在の香港の日本語学習者による日本語学習・言語学習に関するビリーフ調査の集計報告とともに、先行研究の結果との比較を中心とした分析を行うことを目的としている。

## 2. アンケート調査の調査内容と調査実施方法

### 2.1 調査内容

今回の調査では、BALLI の5つの領域のうち、「言語学習の適性」と「言語学習の難易度」を「言語学習の難しさと適性」として1つの領域にまとめ、このほか「言語学習の本質」「学習とコミュニケーション」「動機」の計4つの領域について、40の質問項目について聞いた。質問は、香港の学習者どうしで比較できる可能性を考えて板井（2000）のものを多く採用し、このほか、いずれも Horwitz(1987)を基に作成した阿部（2013）、高崎（2014）、片桐（2005）などで用いられた質問から、香港の学習者に適していると思われるものを選んで使用した。40の質問は、ランダムに並べて領域が明瞭でない形にした。回答方法は、各質問に「強く賛成」「賛成」「どちらでもない」「不賛成」「強く不賛成」の5つのうちから1つを選ぶ形式である。

質問項目は、まず日本語で作成し、実施版の質問用紙は中国語（繁体字版）に訳したものをを用いた。これは、日本語で選択肢を理解するのは難しい回答者がかなり含まれていることが予想されたからである。

### 2.2 調査実施方法

調査協力者は、2014年6月に開催された研究会主催の行事に集った日本語能力試験N3からN5程度の日本語学習者計321名で、会場で本調査の質問用紙（回答用紙も兼ねたもの）を配布し、その場で記入してもらった。

## 3. アンケート調査の結果

### 3.1 回答者の属性

回答者の年代別分布は、20代の合計だけで63.9%となっている（表1）。また、職業は、就労者が59.5%と過半数を超えている（表2）。主たる日本語学習の場を1つだけ選んでもらったところ、「その他」つまり、語学学校や大学付属の社会人向けコミュニティーカレッジなどで日本語を学ぶ人が最も多く68.2%だったが、独学学習者も20.2%いた（表3）。いずれも無回答はなかった。

表1 回答者の年齢分布

年齢	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	計
人数	4	33	126	79	37	19	10	5	3	4	1	321
%	1.2%	10.3%	39.3%	24.6%	11.5%	5.9%	3.1%	1.6%	0.9%	1.2%	0.3%	100.0%

香港の日本語学習者における言語学習ピリーフ

－2014年香港日本語学習者背景調査報告－

表2 職業

	小学生	中学生	高校生	短大生	大学生	大学院生	就労	その他	合計
人数	1	4	16	25	74	6	191	4	321
%	0.3%	1.2%	5.0%	7.8%	23.1%	1.9%	59.5%	1.2%	100.0%

表3 日本語学習の場

	初等	中等	高等専攻	高等選択	その他	個人授業	独学	合計
人数	1	1	7	15	219	13	65	321
%	0.3%	0.3%	2.2%	4.7%	68.2%	4.0%	20.2%	100.0%

回答者のうち、98.4%が広東語を母語としている（表4）。

表4 母語

	中国語1 広東語	中国語2 普通話	中国語 1,2以外	英語	韓国語	その他	無回答	合計
人数	316	1	1	2	0	0	1	321
%	98.4%	0.3%	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.3%	100.0%

表5 母語以外にできる言語

	中国語1 広東語*	中国語2 普通話	中国語 1,2以外	英語	韓国語	その他	日本語
人数	3	288	22	307	19	26	201
321人中	0.9%	89.7%	6.9%	95.6%	5.9%	8.1%	62.6%

\*広東語を母語とした人を除いた数字

次に、母語以外にできる言語を、入門レベルでも母語同様でも、全て挙げてもらった。英語ができる人が95.6%と最も多く、次いで中国語（普通話）89.7%となっている。母語以外の言語で中国語1,2以外の場合、客家語（6）、潮州語（5）、上海語、福建語、閩南語（各2）、四川語、開平語（各1）、が挙げられていた（カッコ内はその言語を挙げた人数）。「その他」の言語では、スペイン語（9）、ドイツ語（7）、フランス語（6）、インドネシア語、タイ語、オランダ語、ロシア語（各1）となっていた。なお、

日本語能力試験応募者であることから、日本語は全員が選ぶはずだったが、100%にはなっていない。これは「できる」の定義をよく読まずに回答していたか、謙遜して「できる」としなかった人がかなりいたものと思われる。

### 3.2 インターネットの使用に関する質問

研究会では、2014年に、日本語を独学で学ぶ学習者に対するアンケート及びインタビュー調査も実施した。その結果、学習者は、動画・書籍・ウェブサイト閲覧や、SNSによるチャットや書き込みなど、インターネットを活用した様々な日本語関連の活動を楽しんでおり、それらが新たな動機付けともなって、日本語学習を続けている現状が見えてきた<sup>1</sup>。特に香港では、無料のWi-Fi環境が整っており、スマートフォンの普及とともに、インターネットが利用しやすい。そこで今回の調査でも、日本語関連のインターネット使用時間数と使用場所について聞いてみることにした。結果は下の表の通りで、30分未満が最も多かったが、毎日3時間以上という人も10%以上あった。インターネット使用の場所は、自宅が96.0%と最も多かったが、次いで交通機関、公共の場という回答が多く、インターネットで場所や時間にあまり縛られることなく日本語活動を行っている実態がわかる。

表6 一日の日本語関連インターネット使用時間数

Net 利用	30分未満	30分以上	1時間以上 2時間未満	2時間以上 3時間未満	3時間以上	無回答	計
人数	103	74	65	44	34	1	321
%	32.1%	23.1%	20.2%	13.7%	10.6%	0.3%	100.0%

表7 インターネットを見る場所（複数選択可）

	職場	学校	自宅	交通機関	公共の場	その他
人数	77	67	308	227	126	4
%	24.0%	20.9%	96.0%	70.7%	39.3%	1.2%

<sup>1</sup> 2014年11月に開催された第10回国際日本語教育・日本研究シンポジウムで調査報告を発表した（宇田川・梁・李・李，2014）

### 3.3 伸ばしたい日本語技能

次に、「読む」「書く」「聴く」「会話」「単独で話す」のうち、伸ばしたい能力の優先順位を1～5の数字でつけてもらった。5つの項目は、JF日本語教育スタンダードの言語活動を参考にしており「会話」は「やりとり」を、「単独で話す」は「産出」の「講演やプレゼンテーションをする」などの項目を意味しているが、香港の学習者に理解しやすい表現を検討した結果、上記のような選択肢にした。

その結果、伸ばしたい能力を「会話」とした人が43.1%と最も多く、次いで聴く能力が34.6%となっていた。読み書きの合計が16.3%であるのに対し、口頭でのコミュニケーションの合計は83.6%となる。

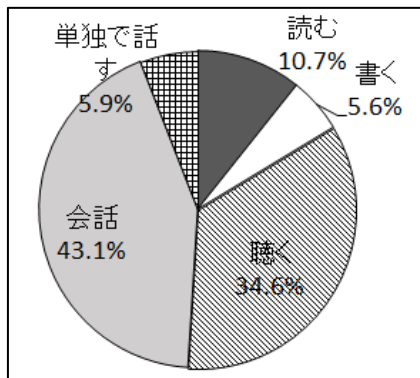


図1 最も伸ばしたい能力

### 3.4 ビリーフ

ビリーフの集計は、各項目について、「強く賛成」を5、「賛成」を4、「どちらでもない」3、「不賛成」2、「強く不賛成」1と置き換えて集計し、項目ごとに平均値および標準偏差を計算した。従って、平均値の大きいほど賛成する人が多いことになる。ビリーフの集計方法には、「強く賛成」を1とし、「強く不賛成」を5として集計する人もおり、板井(2000, 2001)の場合は、2つの論文で異なる平均値の出し方をしている。本調査では数が多いほうが賛成が多い方式を選んだ。また、標準偏差は、統計値の散らばりを表す。

それぞれの項目ごとに平均値と標準偏差を計算し、その後、領域別に、項目を、平均値の高いものから順に並べ替えた。下の表で、「番号」は領域別に質問を作成したときの項目番号で、最初の1～4は領域番号(例えば「学習動機」は領域番号4)、ハイフンの後の数字が領域内の項目番号である。QA順とあるのは、アンケート調査用紙に掲載された全項目40のうちの順を示す。

### 3.4.1 言語学習の難しさと適性

表 8 言語学習の難しさと適性

番号	項目	QA 順	平均値	SD
1-4	外国語学習は大人より子どものほうが易しい。	23	4.04	0.81
1-5	言語を 2 つ以上話せる人は、さらに新しい外国語を勉強するのが容易だと思う。	36	3.40	0.86
1-2	香港の人は外国語学習が得意だ。	16	3.34	0.71
1-1	日本語は難しい言語だ。	8	3.05	0.95
1-3	女性は男性より外国語学習が得意である。	4	3.01	0.88

1-5、1-2 の項目は、香港の言語事情が外国語学習観に何か影響を与えているかどうかを知りたいと考えて設けた。香港は、二文三語(Bi-literacy and Tri-lingualism)を政策として掲げ、家庭では広東語を、小学校 1 年から英語と北京語(普通話/中国語)を必修として学ぶ人が多く、複言語話者が多い土地柄とすることができる。また、1-5 はこの調査のために作成した独自の項目である。いずれも平均値が 3.00 をかなり超えており、香港人の言語学習能力に関する自信が感じられる。

1-3 は性差別的な表現という理由でピリーフ調査からはずす研究者もいる(高崎, 2014)が、香港の学習者がどのように考えるか、敢えて項目として含めてみた。領域内では最も低い平均値となったが、数値的にはわずかに賛成寄りの結果となった。

### 3.4.2 言語学習の本質

表 9 言語学習の本質

番号	項目	QA 順	平均値	SD
2-4	外国語の習得とは、「読む・書く・聴く・話す」のすべての能力を習得することだ。	18	4.56	0.61
2-5	外国語学習はその言葉が話されている国や地域で行うのがいちばんいい。	3	4.38	0.75
2-9	外国語の学習には教科書が必要だ。	15	3.98	0.82
2-6	外国語を習得するためには、その外国語の文化を知ることが必要だ。	33	3.91	0.81
2-2	外国語学習の中でいちばん重要なのは語彙の学習だ	24	3.80	0.78

2-7	外国語を話すより、読んだり書いたりするほうが易しい。	7	3.80	0.97
2-1	外国語学習の中でいちばん重要なのは文法の学習だ。	11	3.68	0.79
2-10	外国語学習は教師なしでは不可能だ。	37	3.50	0.99
2-11	外国語の教師は母語話者であることが理想的だ。	17	3.51	1.00
2-3	外国語学習の中でいちばん大切なのは、自分の言語からの翻訳の学習だ。	30	3.18	0.79
2-8	外国語を聞いて理解するよりも、話すほうが易しい。	27	3.05	0.98

調査側にとって少し意外な結果がいくつか見られたのがこの領域である。最も平均値が高かったのが、「外国語学習における四技能の重要性」である。香港は日本語能力試験が大変盛んで、同試験で「話す」試験がないが、本稿 3.3「伸ばしたい日本語技能」の調査結果と合わせて、香港の学習者は「話す」能力を伸ばしたいと感じていることがわかった。さらに、標準偏差を見ると、2-4 は数値が低く、従って、比較的賛成寄りに回答がまとまっていたことがわかる。2 番目に平均値が高かった項目は、その言語が話されている地域や国でその言語を学ぶことだった。つまり、日本で日本語を学ぶことが良いと考えている人が多いと言える。

香港の日本語教師を対象にした調査では「文法」が重視されている結果が報告されているが(辺・横田, 2012)、本調査では「外国語学習の中でいちばん重要なのは文法の学習だ」という項目の平均値は、例えば 2-4 などと比べるとそれほど多くない。ただし、この項目も、平均は賛成寄りの 3.68 ではある。

標準偏差が全項目中最も高い、つまり、意見が分かれたのが、2-11 の「外国語の教師が母語話者であることが理想的だ」という項目だった。

### 3.4.3 学習とコミュニケーション

表 10 学習とコミュニケーション

番号	項目	QA 順	平均値	SD
3-1	繰り返し練習をすることが重要だ。	9	4.47	0.64
3-13	日本人とおしゃべりする機会がもっとあれば、日本語の学習に役立つと思う。	38	4.40	0.56
3-11	歌やドラマ、アニメなどから日本語の音声を聴くことは日本語学習に役立つ。	12	4.35	0.68

3-2	学習者が積極的に教室活動に参加するような授業は良い授業だ。	34	4.27	0.64
3-10	日本語を使う活動は何でも、日本語の学習に役に立つ。	20	4.24	0.65
3-4	教師が媒介語（広東語や英語）で文法を説明するのが効果的な外国語学習法だ。	21	4.16	0.74
2-3	日本人との日本語練習は効果的だ。	31	3.99	0.83
3-5	きれいな発音で日本語を話せることは重要だ。	2	3.97	0.75
3-9	外国語の授業は学生のコミュニケーション能力を向上させるようなものであるべきだ。	5	3.93	0.76
3-12	文法や語彙の知識が十分にあれば、コミュニケーション力は自然に養われる。	28	3.91	0.78
3-7	教室で学習者どうしが日本語を話しても、学習の役には立たない。	25	2.62	0.99
3-6	授業では教師が主に話し、教師が質問した時だけ学生が答えるものだ。	13	2.29	0.84
3-8	正しく言えるようになるまでは日本語を話すべきではない。	32	1.92	0.89

動機の領域でいちばん平均値が高いのは 3-1 で、言語学習における繰り返しの必要性を挙げている。また、2 位、3 位、5 位の 3-13、3-11、3-10 は今回の調査のために作成した項目で、香港の学習者へのインタビューなどから賛成する人が多いのではないかと予測して設けた。特に、3-11 や 3-10 は本稿 3.2 のインターネットで日本語に関する活動をしている時間や場所に関する集計と合わせて考えると、今後、インターネットを用いた日本語活動によるインフォーマルラーニングがさらに発達していく可能性を示唆していると思われる。

また、少し予想を上回って賛成が多かったのが 3-2 である。教師研修のときなどには、学習者が受身であることや消極的であることが課題だと指摘される声も多いが、この調査結果を見ると、学習者は積極的に教室活動に参加するような授業が良い授業だと感じているようだ。

一方、この領域では、平均値が 3 を割った、つまり、不賛成寄りが多い項目があった。3-7 は、言い換えれば、香港の学習者が「学習者どうしで日本語を話すことも学習の役に立つ」と考えていることを意味している。この点では、板井（2000）で「非母語話者と日本語を話すのは意味がない」という項目に不賛成が多かったことと共通している。また、



全項目中、最も不賛成が多かった項目は 3-8 で、学習者は不正確でも日本語を話す練習を始めることを肯定している。

また、領域を超えて、2-11 と 3-4 の数値がいずれも高いことも興味深い。一方で、「外国語教師は母語話者がいい」（平均値 3.51）としながら「教師が媒介語（広東語や英語）で文法を説明するのが効果的な外国語学習法だ」（平均値 4.16）としている。また、2-3「日本人との日本語練習は効果的だ」（平均値 3.99）も賛成が多いことを合わせて考えると、香港の学習者は、広東語や英語で文法説明できる母語話者を理想の教師と考えているということだろうか。あるいは、ティームティーチングによる「広東語話者の文法説明」と「日本語母語話者による教室活動」の組み合わせという可能性など、いろいろな授業方法が考えられるだろう。

### 3.4.4 学習動機

表 11 学習動機

番号	項目	QA 順	平均値	SD
4-9	日本語を使った活動（例：音楽を聴く、動画を見る、本を読む etc.）はとても楽しい。	29	4.61	0.52
4-7	興味ある話題を通して外国語を学習するのは面白い。	35	4.45	0.53
4-2	日本語学習は私の趣味だ。	6	4.42	0.63
4-1	日本語を学習するのはとても楽しい。	1	4.32	0.62
4-11	日本語が話せるととても役に立つ。	40	4.27	0.66
4-8	私は日本のことをもっと知るために日本語を学習したい。	26	4.26	0.71
4-4	日本人と友だちになりたい。	14	4.21	0.75
4-5	日本語学習の目的は日本人とコミュニケーションすることだ。	19	4.08	0.78
4-6	日本語ができれば、いい就職のチャンスがある。	22	3.61	0.79
4-3	日本語の経済成長や経営方式に興味がある。	39	3.47	0.99
4-10	英語以外の外国語でいちばん学ぶ価値があるのは日本語だ。	10	3.36	0.88

本調査の全ての項目の中でいちばん平均値が高かった 4-9 は、今回の調査のために作成し、先行研究にない項目である。2014 年に研究会で実施した、日本語を独学で学ぶ人を対象とするインタビュー調査で、協力者 5 名全員が「日本語を使った活動が楽しく、趣味として毎日継続して行っている」と言ったことを踏まえ、この項目を入れてみた。4-7、4-2 と、4-1 と上位 4 つまでが、「興味」や「楽しさ」に関連している言葉を含んでいる。板井（2001）の調査でも、4-1 が 1 位（平均値 4.08）、4-2 が 2 位（平均値 3.98）と「香港人が日本語学習を『趣味』と感じている比率が高いことがわかる」とされており、この傾向が今も続いていることがわかる。

動機の領域でいちばん平均値が低かった 4-10 は、今回の調査のために研究会チームで作成したものである。香港では英語が公用語であるが、誤解を避けるため、あえて「英語以外の」と付け加えた。最低の 4-10 でも平均値は 3.36 と賛成のほうが多いことがわかるが、道具的動機は統合的動機に比べて低めであることも板井（2001）の調査と類似している。

## おわりに

以上のように、香港の日本語学習者のビリーフは、筆者グループの予想と合致した部分とそうでない部分があったが、特に、「話す」ことに対する積極性、日本語学習を趣味や楽しみとして捉えているという結果となった。

今回の調査は、最初に述べているように、N 3 および N 5 レベルの学習者が主な回答者だったが、次回は、できれば同じ調査を、N 1、N 2 レベルの上級者も含めて実施し、結果を比較してみたいと思っている。また、今回は学習者のビリーフ調査だったが、香港の日本語教師のビリーフとの比較の必要性も感じている。教師のビリーフについては、辺・横田（2012）の発表予稿があるが、香港の教師に対して大規模に行われたものはないように思われる。

また、項目についても、今回の調査を基に検討を加え、より明確な仮説に基づいたビリーフ調査を再実施できればと考えている。

## 参考文献

- 阿部新(2013)「スペイン・マドリードの日本語学習者の言語学習ビリーフの経済言語学的解釈」『明海日本語』第18号,159-178
- 板井美佐(2000)「中国人学習者の日本語学習に対する Belief について—香港4大学のアンケート調査から」『日本語教育』104号,69-79
- 板井美佐(2001)「香港における中国人学習者の日本語学習に対する動機(BF)、学習 ST および学習活動上の好みに関する調査—香港4大学機関の調査から」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』16,83-102
- 宇田川洋子・李夢娟・劉礪志・李澤森(2013)「香港の日本語能力試験受験者減少の要因を探る—アンケート調査実施報告—」『日本學刊』第16号,233-246
- 宇田川洋子・李夢娟・劉礪志・李澤森(2014)「香港の日本語学習者減少の要因—調査報告—」『日本學刊』第17号,106-120
- 片桐準二(2005)「フィリピンにおける日本語学習者の言語学的 Beliefs—フィリピン大学日本語受講生調査から—」『国際交流基金日本語教育紀要』第1号,85-101
- 木山登茂子・中野貴子・周宏陽・上田早苗・望月貴子・蘇凱達・青山玲二郎(2011)「2010年香港日本語学習者背景調査報告」『日本學刊』第14号,176-195
- 高崎三千代(2014)「メキシコにおける日本語学習者の特性—ビリーフ調査結果を中心に」『国際交流基金日本語教育紀要』第10号,23-37
- 辺晴・横田葉子(2012)「教育現場における日本語教師のビリーフ—大連、蘇州、香港、東京における教師のビリーフ調査—」『第9回国際日本語教育・日本研究シンポジウム』予稿集
- Horwitz, E.K. (1987) Surveying Students Beliefs about Language Learning. *Learner Strategies in Language Learning ed.*, 119-129, Prentice Hall International
- Horwitz, E.K. (1999) Cultural and situational influence on foreign language learners' beliefs about language learning: a review of BALLI studies. *System* 27, 557-576, Pergamon

## 參考資料

### アンケート調査実施版質問紙

<b>問卷調查</b>	
(2014年11月23日)	
以下題目請以✓號選擇適合答案	
<b>你的年齡：</b>	
<input type="checkbox"/> 1) 5-9 歲 <input type="checkbox"/> 2) 10-14 歲 <input type="checkbox"/> 3) 15-19 歲 <input type="checkbox"/> 4) 20-24 歲 <input type="checkbox"/> 5) 25-29 歲 <input type="checkbox"/> 6) 30-34 歲	
<input type="checkbox"/> 7) 35-39 歲 <input type="checkbox"/> 8) 40-44 歲 <input type="checkbox"/> 9) 45-49 歲 <input type="checkbox"/> 10) 50-54 歲 <input type="checkbox"/> 11) 55-59 歲 <input type="checkbox"/> 12) 60 歲或以上	
<b>職業 (請選擇一個最適合的答案)：</b>	
<input type="checkbox"/> 1) 小學生 <input type="checkbox"/> 2) 中學生 (中一至中三) <input type="checkbox"/> 3) 中學生 (中四至中六)	
<input type="checkbox"/> 4) 副學士或高級文憑課程學生 <input type="checkbox"/> 5) 大學生 <input type="checkbox"/> 6) 大學研究院生 <input type="checkbox"/> 7) 在職人士	
<input type="checkbox"/> 8) 其他_____ (請註明)	
<b>你現在主要在甚麼地方學習日語? (請選擇一個答案)</b>	
<input type="checkbox"/> 1) 小學	
<input type="checkbox"/> 2) 中學	
<input type="checkbox"/> 3) 大學或研究院主修/副修日語	
<input type="checkbox"/> 4) 大學的選修科目、證書課程、副學士或高級文憑課程等	
<input type="checkbox"/> 5) 其他日語學校 (語言學校、大學專業進修學院等)	
<input type="checkbox"/> 6) 私人教授	
<input type="checkbox"/> 7) 自學	
<input type="checkbox"/> 8) 其他_____ (請註明)	
<b>你的母語：</b>	
<input type="checkbox"/> 1) 廣東話 <input type="checkbox"/> 2) 普通話 <input type="checkbox"/> 3) 廣東話或普通話以外的中國方言_____ (請註明)	
<input type="checkbox"/> 4) 英文 <input type="checkbox"/> 5) 韓文 <input type="checkbox"/> 6) 其他_____ (請註明)	
<b>除母語之外, 你懂得的其他語言 (入門或任何程度均可):</b>	
<input type="checkbox"/> 1) 廣東話 <input type="checkbox"/> 2) 普通話 <input type="checkbox"/> 3) 廣東話或普通話以外的中國方言_____ (請註明)	
<input type="checkbox"/> 4) 英文 <input type="checkbox"/> 5) 韓文 <input type="checkbox"/> 6) 日文	
<input type="checkbox"/> 7) 其他_____ (請註明, 可填寫多項)	

<b>問題 1 你希望自己可以加強哪方面的日語能力? 請依次序在 _ _ 中填寫 1 - 5 代表希望的程度 (1 為最希望)</b>	
A) 閱讀 (讀解) 能力_____    B) 書寫 (作文) 能力_____    C) 聽解能力_____	
D) 會話能力_____    E) (單獨演說、發表等) 的會話能力_____	
<b>問題 2 你在公餘時, 每天會計花多少時間在網上觀看或使用有關日語的網上媒體 (工作或學習上的需要除外)? 視像, 網頁, 音樂, 通訊等任何使用日語的網上活動均計算在內。 (請選擇一個答案)</b>	
<input type="checkbox"/> 1) 每天 30 分鐘以下 <input type="checkbox"/> 2) 每天 30 分鐘至 1 小時以下 <input type="checkbox"/> 3) 每天 1 小時至 2 小時以下	
<input type="checkbox"/> 4) 每天 2 小時至 3 小時以下 <input type="checkbox"/> 5) 每天 3 小時以上	
<b>問題 3 你在公餘時間, 會在甚麼地方上網呢? (可選擇多項)</b>	
<input type="checkbox"/> 1) 公司 <input type="checkbox"/> 2) 學校 <input type="checkbox"/> 3) 家中 <input type="checkbox"/> 4) 交通工具 (例: 地鐵或巴士等)	
<input type="checkbox"/> 5) 公共場所 (例: 商場、餐廳、圖書館等) <input type="checkbox"/> 6) 其他_____ (請註明)	

香港の日本語学習者における言語学習ピリーフ

—2014年香港日本語学習者背景調査報告—

調査用紙 2 ページ目

問題 4 你对以下每條題目分別有甚麼想法？(請用✓號表示每題最適當的答案)

		十分贊成	贊成	意見中立	不贊成	極不贊成
1	學習日語是件樂事					
2	說日語最重要是發音要漂亮準確					
3	學習外語，最好到當地學習					
4	女性學習外語的能力比男性高					
5	外語課堂應以提高學員的溝通能力為先					
6	學習日語是我的興趣					
7	外語的閱讀和書寫，比會話更容易					
8	日語是難學的語言					
9	重複練習在學習上很重要					
10	除英語外，最有學習價值的外語是日語					
11	學習外語最重要是學習文法					
12	從歌曲、劇集、動漫等聆聽日語，對學習有幫助					
13	授課時，應該以老師講解為主，學生只能在老師發問時才回答					
14	想結交日本朋友					
15	學習外語，教科書不可或缺					
16	香港人在學習外語方面有天份					
17	日語老師最好是以日語為母語的人（日本人）					
18	學習外語，「讀、寫、聽、講」四方面均需學習					
19	學習日語的目的是想跟日本人溝通					
20	任何可以使用日語的活動均對學習日語有幫助					
21	老師使用通用語（廣東話或英語）來解釋文法，可使外語學習更收效。					
22	懂日語，會有較好的就業機會					
23	小孩比成人更容易學習外語					
24	學習外語，最重要的是牢記詞彙					
25	即使學員在教室裡互相以日語交談，對學習日語也幫助不大					
26	我學習日語的目的是想瞭解更多日本事物					
27	說（外語）比聽（外語）更容易					
28	充分掌握文法或詞彙，自然可養成溝通能力					
29	能活用日語（聽音樂、看視像、看書等）是件樂事					
30	學習外語最重要的是學習翻譯					
31	以日本人作對手練習日語最為有效					
32	未有十足把握之前，為免出錯，不應該說日語					
33	學習外國語言，得瞭解該國文化					
34	能令學員積極參與的授課，才是好的授課					
35	透過感興趣的話題來學習外語是有趣的					
36	懂得 2 種以上語言的人，學習新的語言比較容易					
37	學習外語不能沒有老師					
38	愈多機會與日本人傾談，對學習日語愈有用					
39	我對日本的經濟發展或經營方式很有興趣					
40	能說日語很有用處					

----- 問卷完畢，感謝你的寶貴意見 -----